

安全教育



第39号

平成30年
2月23日発行
発行責任者
横田 竜一

一般財団法人 横浜市安全教育振興会
〒231-0014 横浜市中区常盤町3-25 サンビル7階 電話 045-662-7835 FAX 045-662-9831

事業の充実をめざして

昨年6月に理事長に就任し8か月。学校管理下外の事故に対する共済金給付をはじめ防災安全教室・救命救急講習、ポスター展など幼児・児童・生徒の健康と安全に係る事業の実施、青少年育成団体への団体助成、賠償責任保険など、安振会のスローガン『一人はみんなのために みんなは一人のために』の下に計画した諸事業を滞りなく実施することができました。来年度も、児童・生徒の健全育成に係る諸事業を充実させ実施していく所存です。ご理解とご協力をお願い申し上げます。さて、諸事業の実施にかかわって何点かお知らせとお願いをさせていただきます。

ポスター展の作品をカレンダーに

第31回「健康と安全」ポスター展を12月19日～23日に開催いたしました。前回のポスター展までの特別賞(横浜市長賞、横浜市教育委員会教育長賞、横浜市教育委員会賞、横浜市安全教育振興会理事長賞、横浜市PTA連絡協議会会長賞、神奈川新聞社賞)に加え今回は、三菱鉛筆東京販売株式会社様の協賛を得て審査員特別賞を設けることができました。また今回のポスター展から、特別賞の作品をカレンダーにして各学校・PTAにお届けいたします。学校内に掲示するなど、健康と安全への啓発にご活用いただければ幸いです。

HPのリニューアル

ホームページをリニューアルいたします。安振会は学校管理下外の事故に伴う災害給付がメイン事業の共済団体です。にもかかわらず、災害給付がメインであることがわかりにくいホームページ構成でした。皆様がより使いやすいよう構成を整理してまいります。なお、ホームページのリニューアルとは離れますが来年度当初、平成28年度に各学校に配布させていただいた冊子型の様式集をCD型にして賛助会員校に配布させていただきます。横浜市のインターネット環境の変化により、各学校での各種申請書式のダウンロードに支障が生じているとのことで、それを鑑み取り組みです。ご活用いただければと存じます。

AEDの設置

安振会が入居しているビルにAEDを設置いたします(4月予定)。ご案内のように、安振会の事業の一つに救命救急講習があり、AEDの使用法を中心に年間7回講習を実施しています。にもかかわらずこれまで、安振会は自前のAEDを持っていませんでした。実は安振会が入居しているこのビルにも備え付けがありません。AEDの講習を行っている団体にAEDがないの

理事長 横田 竜一



はいかがなものかと以前から気になっていました。横浜市の子どもの健康と安全に直接つながることはありませんが、理事会に諮ったところ、出席理事全員の賛成によりAEDを備え付けることとなりました。備え付けると言っても事務局の中では意味がありません。当ビルがバス停の真ん前にあることも考慮し、ビルのオーナーの了解をいただいて1Fロビーに設置することとなりました。ビルにきた人や前を通りかかった人の「もしも」の時に役立つことができればと思っております。

見舞金対象範囲の変更

今年度まで、小・中学校や特別支援学校の児童・生徒が放課後施設を利用する場合、当該施設での活動中以降を安振会の見舞金給付範囲としてきました。それを来年度から以下のように変更いたします。

平成29年度(本年度)まで:平成30年3月31日まで

安振会の対象外			安振会の対象		
登校	学校	下校	家庭		
			はまっ子ふれあいスクール キッズクラブ・学童クラブ等 活動中 下校 家庭		

※ただし学校が休みの日は往路も管理下外で対象となります。

平成30年度(次年度)から:平成30年4月1日以降

安振会の対象外			安振会の対象		
登校	学校	下校	家庭		
はまっ子・キッズ・学童 からの帰宅途中※			はまっ子・キッズ・学童等の 活動中		

※ただし学校授業中。学校が休みの土日祝日や長期休業中は往路復路ともに学校管理下外となり安振会の災害給付の対象となります。

日本スポーツ振興センターの学校管理下についての見解が当初の確認と異なっていたことが変更の理由です。ご不明な点がございましたら安振会事務局までお問合せをいただければと存じます。なお、見舞金の対象範囲の変更については別途、各学校長様とPTA会長様宛の文書をお届けしておりますので、ご確認のほどお願い申し上げます。

以上です。繰り返しになりますが、30年度もご理解・ご協力をよろしく申し上げます。

〈調査研究委託事業〉

自ら考え、共に学び合う子どもを はぐくむ健康教育

～課題を本気で解決する子どもの姿を目指して～

横浜市立間門小学校

1 本校の現状

本校では、子どもがめあてをもって、活動し、振り返り、まためあてをもつという学習サイクルを大切にしながら、自ら考えたり、友達と学び合ったりして学習を積み重ねてきました。その結果、子どもは課題に進んで取り組む姿勢が見られるようにはなってきましたが、課題を「自分ごと」としてとらえ、必要感をもって解決に努める姿になってきているかどうかというところに疑問が残りました。

2 研究内容

そこで、本校ではこれまでの課題解決に向かう姿にさらに学びへ積極的に関与する姿を加えたものを「本気で解決する姿」ととらえ、その姿を引き出す授業づくりを進めていくことにしました。

研究を深めていくうちに子どもが課題を本気で解決したいという思いが強く表れる学習過程があることに気付かされました。本気で学ぶ子どもの姿が現れるかどうかは、単元の導入によって大きく左右されるというものです。そこで、単元の導入において以下の3つのことを意識して授業に取り組みました。

(1) 子どもが学習への期待感をもつ

まずは、子どもの学びにつながる「やってみたい」、「解決したい」という意欲を引き出すことが大切だと考えました。ここで、子どもが単元を貫く目標意識をもつことで自ら学びを獲得していこうとする姿が現れることを目指しました。

【手立て】

- できそうな動きや技がイメージできるように、遊び方や技の系統を提示する。
- ゲームや競争(走)で勝つ喜びを全員が味わえるようなチーム分けをする。
- 現在の技能で楽しむことができるようなルールや場を設定する。 など

(2) 子どもが学習の見通しをもつ

次に、学習計画を子どもと作っていくことを大切にしました。教師は単元で身に付ける力を明確にした上で、子どもの思いに寄り添いながら、一緒に学習計画を立てていきます。

【手立て】

- 学習の振り返りで出たことをもとに課題を設定し、今後取り組んでいくことを知る。
- 学習の行い方や学び方を知る。 など

(3) 子どもが自分に合った課題をもつ

最後に、子どもが自分に合った課題をもち続けることが大切だと考えました。『今、何ができるのか・どうになりたいのか』、『何を解決したいのか』、『そのために何をするのか』などを見つめます。

【手立て】

- 試しのゲームや間門セットを用意する。
- 自分の動きを確かめることのできるような場面を設定する。(見合い、ICT機器など) など

3 まとめ

私たちは子どもが「できるようになりたい」、「勝ちたい」という心の底から湧く前向きな思いを引き出せるような学習を展開するということを大切に研究を進めてきました。これらの思いは、日々の学校生活において子どもの自己肯定感を高めることで、体育科の学習にも生きてきます。これからも日々の教育活動の中で子どもに対して励ましや称賛を積み重ねることで、子どもがより夢中になって課題解決に臨めるようにしていきたいと思います。



〈調査研究委託事業〉

豊かな学び合いを通して、 健康な生き方をつくる子どもの育成をめざして

～「健康科」の授業を通じた「体力向上推進」「食育実践推進」の取組～

横浜市立宮谷小学校

1 本校の現状

本校では、平成17年度に、PSYとして、これまでに取り組んできた健康教育をさらに系統立て発展させた教科として、「健康科」を創設し、食育や体育・特活・保健指導・総合など、これまで各教科等の中で取り組んできた健康に関する内容を整理して「健康科指導計画」を作成するとともに、「食」「体」「心」を領域とした実践研究を重ねてきている。その取組の成果として、自らの健康に関心をもち、よりよい生活をしたいたい願う子どもの姿が見られるようになってきている。

2 「体力向上推進」の取組

(1) 健康科における体に関する取組

体に関する取組では、「歯みがき」「風邪予防」「視力、咀嚼、便」「姿勢保持」「睡眠」「生活リズム」の内容について6年間を通して学習している。その中で、ただ知るだけでなく、より具体的で体験的な活動を通して学ぶことで、より自分事として学ぶことができるようにした。そして、実生活での実践など具体的な取組も行うことで生活改善や日常化につなげていけるよう取り組んだ。



手洗いの実践(風邪予防について)

(2) 養護教諭との連携

子どもたちから「本当にそうなのだろうか。」「もっと詳しく知りたい。」といった思いを引き出し、そこで養護教諭から具体的で専門的な話を聞くことで、子どもたちの思考を整理したり、より興味をもったりすることができるようにして連携を行った。



養護教諭との連携

3 「食育実践推進の取組」

(1) 食環境の充実

給食献立には学校独自で県内産、市内産食材の使用をすすめている。旬の食材にふれる取組としては、そら豆のさやむき、とうもろこしの皮むき、枝豆のさや取り体験を実施しており、調理前の食材に触る機会が少ない子どもたちにとってさまざまな感覚をつかかって感じとるよい経験になるよう取り組んできた。



枝豆のさやむき体験

(2) 栄養教諭との連携

「健康科」や食にかかわる関連教科の中で担任は栄養教諭と連携して授業を行った。栄養教諭は専門性を生かして授業に加わることはもとより、「健康科」の目標達成に必要な資料や教材を工夫し、子どもが給食や給食を作る人を身近に感じることができている情報や資料を提供するようにした。



「食」の授業でのかかわり

まとめ

平成27年度と28年度の残食率を神奈川県と横浜市、本校の結果と比較すると、全ての項目で神奈川県と横浜市よりも残食が少なくなっている。また、平成27年度の6年生のDMF 歯数(12歳児における平均歯数)が0.21(基準値2.9)と大きく下回るなど、数値としての結果として出ている。

また、中学校へ上がった子どもたちは小学校の健康科で学んだことの意識がしっかりと継続してできていたことが新体力テストの分析結果や中学校での様子を聞いたことから分かった。今後も本校の「健康科」で学習したことを卒業後も意識し実践できるよう研究を進めていく。

〈調査研究委託事業〉

平成29年度 役員理事研修会

子どもの関係性を豊かにする居場所

横浜市PTA連絡協議会

●日時：平成30年1月17日（水） ●場所：マツムラホール

●講師：NPO法人さいたまユースサポートネット代表理事 青砥 恭 氏

（元埼玉県立高校教諭・現在は明治大学講師。横浜市子どもの貧困対策に関する計画策定連絡会委員。2011年さいたまユースサポートネットを設立し、さいたま市において居場所のない若者の支援活動をおこなっている。）

この研修会には横浜市内18区のPTA代表の方、高等学校部会及び特別支援学校部会のPTA代表の方が出席し、社会的にも問題になっている〈こどもの貧困〉それに伴う〈こどもの居場所〉について、私達大人のあり方等についてご講演いただきました。

始めに、吉野源三郎著「君たちはどう生きるか」より、主人公のコペル君の精神的成長に託して伝えようとしたのは何か、人生においてどう生きていくべきか、というメッセージを現実社会と照らし合わせて、当時の中学への進学率や、様々な家庭環境の中で育っていく子ども達、その時代にもあったいじめの事等、分かりやすくお話していただきました。

現在、さいたまユースの居場所に集う若者たちは、〈家族の貧困・孤立・外国生まれ・DV〉〈学校でのいじめ・不登校・低学力・高校中退〉〈知的、発達障害・精神疾患・他者、社会への信頼のなさ〉など様々な理由で居場所をなくしてしまい、この場所に通っているそうです。

貧困と格差の中で奪われていく自己肯定感、勝者と敗者をつくる格差社会での競争、学校文化を覆う数値競争。「自分は親から期待されていない」と答える若者たちは、自己肯定感を喪失し他者、社会への信頼を失い孤立してしまいます。参加せざるを得ないこの社会システムを作ってしまった大人の責任として、若者たちへの支援と居場所づくりをしていくことが大切だとお話しをされました。

このような社会システムからこぼれ落ちた若者たちの居場所がさいたまユースの居場所であり、若者自立支援ルームであり、ここでは、①課題を持つ子ども、若者への「うながし」。「ひきこもり」からの〈回復目標〉のイメージを体験的に他者と関わりながらつくる。②利用者は何年も孤立の中で自己否定し他者との関わりの中で「自分も人と関わられる、生きていてもいい」という事実を作っていく。ここに重点を置き、学校にも職場にも行けない人が他者と出会える居場所として運営されています。具体的な活動も紹介してくださり、参加者からのその活動の成果はという質問には、簡単にはいかない、すぐに成果も出ない、元の居場所に戻すことを目標としているわけではなく、〈自分が何者であるか〉〈いかに生きていくのか〉〈どこに行こうとしているのか〉自分自身で考えていけるよう、少し背中を押すことが大切だとお答えいただきました。

現実起こっている社会の状況を知り、子どもたちの関係性や居場所の重要性を感じる事の出来た講演でした。

我々大人が、今後何をすべきか、どうあるべきかという事を改めて考えさせられました。



〈団体助成事業〉

頑張っています!! 『青葉区 小中高生ミュージカル』

実行委員会代表／諏訪部 真史(横浜市立谷本中学校長)



歴史

「青葉区 小中高生ミュージカル」は、2001年に「あおば区民まつり」のプログラムの一つとして、青葉区で初めて市民参加型のミュージカルとしてスタートしました。この年は、学校演劇を手がける専門スタッフの2か月間の指導で、雨模様の2回上演会に1300名の観客を動員し、大成功をおさめる事が出来ました。

当時の出演者は、小学校2年生～高校3年生で年齢幅の広さにミュージカルの成立が危惧されましたが、上級学年の子ども達が下の子どもたちの面倒を自然にみる事で、まとまりや教え合う等の型が出来ていきました。現在脚本・演出でご指導頂いている「目崎剛」さんは、本ミュージカルの卒業生でもあり、他にも沢山の卒業生が後輩の指導に毎年ボランティアで参加してくれています。ボランティアも最初は教職員が中心でしたが、保護者の有志や地域の方々も次々に参加して頂き、輪が広がっていきました。

目的

実行委員会では、「ミュージカルの企画構成などのミュージカルづくりやサポートする中で、出演する子どもたちとの交流を深めるとともに、子どもたちの成長と豊かなまちづくりをめざす。」を目的としています。

実行委員会の活動

実行委員会の事業は、公演運営です。その内容は、①実行委員会として子どもたちの募集から練習場の世話などの業務を保護者と一緒にする。②公演の広報・宣伝を担いチラシ配布チケット販売などの準備をする。③公演直前や当日の公演運営を分担して補助する。④ミュージカル参加の保護者と一緒に運営していく。

他にも「青葉区小中高生ミュージカルを子どもとつくる保護者の会」を組織し、①サポーターとしてスタッフを補助し、練習場での子どもたちの世話など運営全般に協力する。(練習場にサポーターとして参加する。)②公演の広報・宣伝を担い、チラシ配布・チケット販売などに協力する。③公演直前や公演当日には、舞台づくり、会場づくり、公演運営などを分担して補助し、サポーターとして公演活動に参加する。

年間のおおよその流れ

- 3月 脚本構想及び制作
- 5月～8月 青葉区内在住・在学の小中高生に広く広報し、通学先の学校にも協力依頼をして、出演者を公募
- 10月 説明会及び発足式
- 11月 基礎練習(週1回程度)
- 12月～ ミュージカル稽古(週3回)
- 2月～ 稽古(週4回から最終週は毎日)



参加児童生徒の言葉

「小学生から高3まで色々な参加者がいるので、自分とは全く違う視点の意見を聞くことも出来学ぶ事が多いです。そしてこのミュージカルの特徴は脚本・音楽・ダンスの全てがオリジナルというところです。」(高3女子)

「私達メンバーは基本を大切にし、自分たちが伝えたい想いをどうしたらお客様に伝えられるかを考えながら稽古しています。長い歴史のあるこのミュージカルをこの先も後輩達に繋げていけるように頑張りたいと思います。」(高2女子)

本公演には、安全教育振興会様からも助成金を頂いております。感謝申し上げます。



〈団体助成事業〉



横浜港カッターレース実行委員会事務局

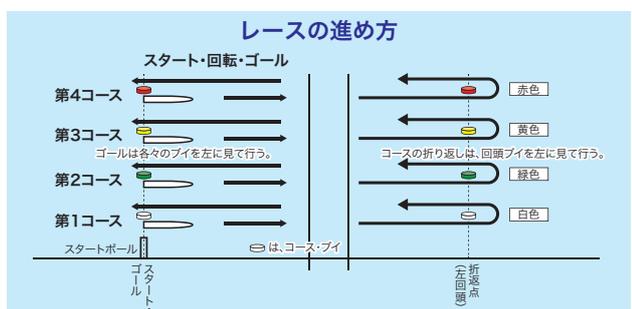
平成29年5月21日(日)好天に恵まれた山下公園で第34回横浜港カッターレースが開催されました。当日は気温も上がり、横浜の最高気温は横浜で30度を超え、絶好のカッター日和となりました。また、今年の山下公園は、第33回全国都市緑化よこはまフェアの開催と重なり、参加者約2000名に加え、その家族や応援団、更には散策中の来場者も含め、多くの観覧者を得て一際賑わいを見せていました。レースは競技委員の円滑な運営の元、予定の59レースをほぼ時間通りに終了することができ、参加者からも満足な意見を聞くことができました。

横浜港カッターレースについて

横浜港カッターレースは、帆船日本丸の横浜誘致を記念して昭和60年から開催されており、多くの人に港に親しみを感じてもらい、港に賑わいを創出しようという目的で始まりました。横浜市民に限らず全国から参加者を募集したところ、回を重ねるごとに参加希望者が増え、現在はこの大会に出るためには抽選で選ばれないと出場できないほどになっています。参加者は横浜港で働く企業や団体、大学等のカッター部OBや現役カッター部の学生など、全国から多数のグループが参加して国内最大級の規模で開催され、横浜港に初夏の訪れを告げる風物詩となっています。

カッターとは

カッターは通常大型客船や貨物船などに積まれる救命ボートが原型で、一般的な船が船首と船尾が同型であるのに対し、カッターは船尾を切り落とした「カットした」形状となっています。映画「タイタニック」に出てくる救命ボートが「カッター」です。横浜港カッターレースでは小型で未経験者でも扱えるような6m級カッターを使用しています。



漕ぎ手6名(片舷3名ずつ)・艇の舵を取る艇長1名・掛け声をかける艇指揮1名の計8名乗艇のレースになります。

レースの方法

横浜港カッターレースでは、山下公園の海沿いに4本のコースを設定して、片道200mのコースを一斉にスタートし、氷川丸の左舷側に設置した折り返しブイを回り200m漕いでゴールします。

レースの区分

- (1) 一般レース (34回大会実績160チーム40レース)
各レースの1位のタイムで上位16チームが準決勝に進み、その中の1位4チームが決勝に進みます。
- (2) シニアレース (34回大会実績14チーム4レース)
参加チーム全員のタイム上位で順位を決定します。
- (3) 小学生特別レース
参加チーム全員のタイム上位で順位を決定します。
- (4) 女子レース (34回大会実績25チーム7レース)
女子レースは各レースのタイム上位4チームが決勝に進み順位を決定します。

レースの見どころ

カッターのオールはとても長く重たいため、一般の男性でも前に進めるには相当の体力が要求されるスポーツです。特にスタートからの発進には重たいオールがしなるほどの力がかかります。また折り返した後の復路などでは体力の消耗も激しく、気力の勝負となる場合があり、多くの声援と激しくデッドヒートする船の勝負が見ていて感動していただけると思います。



〈安振会年間事業〉

平成29年度安全教室

日本赤十字社の指導員による 救急救命法教室

第1回	7月13日(木)	15名
第2回	9月 8日(金)	18名
第3回	9月29日(金)	16名
第4回	10月13日(金)	16名
第5回	11月 2日(木)	16名
第6回	11月30日(木)	13名
第7回	1月19日(金)	16名

会場：(一財)横浜市安全教育振興会 事務局

時間：9：30～11：30

内容：心肺蘇生法、「AED」の取扱い、止血法 等



横浜市民防災センターの職員による 講習と体験ツアー

第1回	9月26日(火)	31名
第2回	10月17日(火)	17名
第3回	11月14日(火)	30名
第4回	12月 4日(月)	21名
第5回	1月16日(火)	12名

会場：横浜市民防災センター

時間：10：20～12：00

内容：防災講和、地震等災害体験、
減災トレーニング 等



役員コンプライアンス研修会

7月14日(金)

会場：(一財)横浜市安全教育振興会 会議室

文科省の担当の方に指導していただきました。



第31回「健康と安全」ポスター展

展示期間：平成29年12月19日(火)～
平成29年12月23日(土)

展示会場：横浜情報文化センター

応募点数：454点

受賞作品：特別賞14点 入選12点 佳作13点

審査委員

横浜市立中学校美術研究会会長

長澤 博昭 先生(横浜市立芹が谷中学校長)

横浜市小学校図画工作教育研究会会長

桃井 陽子 先生(横浜市立原小学校長)



第31回「健康と安全」ポスター展 受賞作品



横浜市
市長賞



まもろう 安全
汐入小学校2年 岩田 悠香



横浜市
市長賞



あいさつ
仲尾台中学校1年 満 興越



横浜市
教育委員会
賞



おはなししよう
和泉小学校5年 荻野 ゆらら



横浜市
教育委員会
賞



大切にしよう家族との会話
左近山中学校2年 大古田 玲奈



横浜市
教育委員会
賞



ヘルメットがぶつていれお
和泉小学校1年 新海 友望



横浜市
教育委員会
賞



信号無視は危ない!!
仲尾台中学校1年 畑 杏樹



一般財団法人 横浜市安全教育振興会
理事長賞



みんなは知ってる?
自転車にも
ルールがあります
間門小学校5年 岩瀬 ひかる



一般財団法人 横浜市安全教育振興会
理事長賞



良い睡眠は幸せな夢を作る
左近山中学校3年 齊藤 樹音



横浜市PTA連絡協議会
会長賞



笑顔の多い明るい食卓
東中田小学校6年 田口 愛唯



横浜市PTA連絡協議会
会長賞



「温かい」を家族で作ろう
小山台中学校2年 荻野 涼



神奈川新聞社賞



森を守る
あざみ野第二小学校3年 中野 真親



神奈川新聞社賞



しっかり寝ていい夢を
左近山中学校3年 足立 未結



審査員特別賞



おうだんほうは きをつけて
藤塚小学校2年 藤村 埜乃



審査員特別賞



地球を冷やそう
秋葉中学校2年 安室 朋華

平成29年度 加入状況

校種	賛助会員数	世帯数
小学校	336	142,451
中学校	136	68,542
高等学校	5	4,242
特別支援学校	12	1,467
総計	489	216,702

(小学校には、横国大附属横浜小が含まれる)

平成29年度 評議員名簿

役職名	氏名	備考
評議員	大槻 繁美	学識経験者((公財)よこはまユース理事総務部長)
評議員	工藤 春治	学識経験者(横浜市子ども会連絡協議会会長)
評議員	栗原 聡	学識経験者(NPO法人ハマのトウダイ理事長)
評議員	堀 英雄	学識経験者(神奈川県立高等学校安振会評議員)
評議員	山岸 秀之	横浜市教育委員会総務課長
評議員	金澤 眞澄	横浜市立中学校長会総務
評議員	荒巻 正則	横浜市PTA連絡協議会副会長
評議員	丸山 智美	横浜市PTA連絡協議会副会長

平成29年度役員・審査委員名簿

役職名	氏名	備考	
理事長	横田 竜一	学識経験者	○
副理事長	中村 正孝	学識経験者	○
副理事長	遠藤志津江	学識経験者	○
専務理事	山元 泰弘	安振会事務局長	○
常務理事	豊田 則夫	学識経験者	○
理事	三枝木鉄朗	学識経験者	
理事	青木俊太郎	学識経験者	
理事	竹本 靖代	学識経験者	
理事	鈴木 秀高	学識経験者	
理事	生田 麻実	学識経験者	
理事	山下久美子	学識経験者	
理事	奈良輪孝雄	小学校長会副会長	○
理事	高橋 良裕	中学校長会副会長	○
理事	井川 章弘	特別支援学校長会理事	
理事	海上 良太	横浜市PTA連絡協議会会長	○
理事	樋口眞砂子	横浜市PTA連絡協議会副会長	○
理事	菅野 陽子	横浜市PTA連絡協議会会計	
監事	柳澤 潤	小学校長会総務	
監事	青木 潤	横浜市PTA連絡協議会書記	

○印は審査委員兼務

審査委員	紺野 勉	横浜市医師会推薦
審査委員	山崎 具基	横浜市医師会推薦
審査委員	神保 裕紀	横浜市歯科医師会推薦

平成29年度 上期 供花料給付一覧表

(平成29年4月1日～平成29年9月30日) (単位 円)

給付別種・事由	対象	給付件数	給付額
(1)児童生徒供花料	児童	1	30,000
	生徒	6	180,000
	小学校	18	540,000
	中学校	23	690,000
(2)保護者供花料	高校・特別支援	1	30,000
	(3)教職員供花料	0	0
(4)証明書代等		40	64,220
合計		89	1,534,220

費目	件数	金額
(1)振込手数料	86	34,344
(2)その他の手数料	0	0
合計	86	34,344
支払総額		1,568,564

平成29年度 上期 共済見舞金給付一覧表

(平成29年4月1日～平成29年9月30日) (単位 円)

給付別種・事由	対象	給付件数	給付額
(1)傷害事故	児童	1,008	12,343,930
	生徒	94	1,211,010
(2)障害	児童	0	0
	生徒	2	125,640
(3)交通事故	児童	22	68,450
	生徒	2	6,540
小計		1,128	13,755,570
(1)学校管理下外事故死	児童	1	500,000
	生徒	1	500,000
(2)交通事故	児童	1	200,000
	生徒	0	0
(3)登下校中の交通事故死	児童	0	0
	生徒	0	0
小計		3	1,200,000
(1)傷害事故		6	85,220
(2)障害		0	0
(3)交通事故		0	0
(4)事故死		0	0
(5)往復途次の交通事故死		0	0
(6)病死等		0	0
小計		6	85,220
(1)特別負傷見舞金		2	21,080
(2)特別交通事故見舞金		0	0
(3)死亡弔慰金		0	0
小計		2	21,080
合計		1,139	15,061,870

費目	件数	金額
(1)振込手数料	932	283,392
(2)その他手数料	4	2,592
合計	936	285,984
支払総額		15,347,854

安全教育推進団体に対する助成

(平成29年12月現在)

申請のあった単位PTAに対する助成 1校4万円(上限) 343校	13,603,749
区・部会PTA講演会研修会等助成	3,585,000
横浜市PTA連絡協議会事業助成	2,950,000
横浜市立小学校長会「専門研究事業」	300,000
第34回横浜港カッターレース	100,000
第17回全国中学校文化連盟総合文化祭神奈川大会兼第3回県中学校総合文化祭交流発表会	300,000
第15回学校給食展示会	200,000
第22回野島クリスマスキャンプ2017	200,000
第15回横浜市立小学校ラグビー交流会	150,000
(一社) 横浜勤労青少年福祉協会「夏休みお楽しみ教室」	100,000
第69回関東甲信越地区小学校長研究協議会神奈川大会	200,000
関東甲信越・全日本中学校長会研究協議会派遣事業	300,000
横浜市民生委員児童委員協議会民生委員制度創設100周年記念事業	100,000
(一社) 横浜すばいす プログラミング教育支援事業	150,000
磯子区スポーツ交流会小中学校インディアカ大会	50,000
横浜市健民少年団「夏期キャンプ訓練会」	30,000
よこはま学校食育財団「食育推進事業親子料理教室」	31,100
青葉区小中高生ミュージカル	50,000
第5回yokohama学校地域コーディネーター・フォーラム	30,000
特別支援教育の推進と理解啓発専門研究事業	300,000
第33回小学校算数教育全国大会	150,000
第39回神奈川県小学校理科教育研究大会横浜地区大会	100,000
第26回全国小学生生活科・総合的な学習教育研究大会神奈川大会	300,000

平成29年度 区部会講演会研修会一覧

区名	開催日	事業名	会場	講師
鶴見	12/ 3(日)	映画上映「みんなの学校」	鶴見公会堂	
神奈川	12/ 9(土)	ミュージカル落語「〜いじめ・偏見・差別をなくすキュートな世界〜」	神奈川中学校	三遊亭 究斗
西	2/23(金)	講演会「食育について」	西公会堂	枝元 なほみ
中	10/ 5(木)	スポーツ文化交流会「陰陽ヨガ」	港中学校	仲眞 明美・齋藤 たまき
	1/16(火)	講演会「犯罪からの身の守り方」	開港記念会館	落合 令子
南	1/20(土)	講演会「可能性への挑戦」	南公会堂	舞の海 秀平
港南	9/ 4(月)	秋季全体研修会・ZUMBAスペシャルプログラム	港南スポーツセンター	坂口 昌子
保土ヶ谷	12/ 7(木)	講演会「思春期ブギ・反抗期と思春期のトリセツ」	瀬谷公会堂	高野 優
旭	11/28(火)	講演会「我が子が生き生きと育つ 家族のコミュニケーション」	旭公会堂	真島 健一郎
磯子	1/26(金)	講演会「なぜ、いじめはなくなるの?元いじめられっ子の落語家からのメッセージ」	磯子公会堂	桂 ぼんぼ娘
	9/27(水)	講演会「成長のタイミングを逃さない食事のとり方」	関東学院八景キャンパス	菅 洋子
金沢	11/22(水)	講演会「命の授業」	磯子公会堂	豊島 勝昭
港北	1/12(金)	講演会「笑顔になる子育て」	港北公会堂	渡辺 久子
緑	12/15(金)	講演会「自尊感情をそだてる～自分をもっと好きになる講座自分にすべてにありがとう&自己尊重トレーニング～」	みどりアートパーク	北村 年子
青葉	11/30(木)	講演会「ぐんぐん伸びる子は何が違うのか?」	青葉公会堂	石田 勝紀
都筑	1/26(金)	講演会「親だからできること」	都筑公会堂	高濱 正伸
戸塚	12/ 1(金)	講演会「『がんばらなくちゃ』より愛しい自分に『ありがとう』」	戸塚公会堂	北村 年子
栄	11/30(木)	講演会「自分も相手も大切にコミュニケーション～みんなちがってみんないい～」	栄公会堂	吉井 奈々
泉	11/11(土)	講演会「子どもの意欲を高めるコツ 怒るのに疲れたアナタへ～よくわかる自尊感情～」	泉公会堂	田中 洋輔
瀬谷	11/28(火)	講演会「子どもの“考える力”を伸ばすコツ」	瀬谷公会堂	狩野 みき
高校	10/31(火)	講演会「人生に無駄な経験など何ひとつない」	横浜サイエンスフロンティア高校ホール	立川 志の春
特別支援	1/17(水)	講演会「苦しみを抱えた人に、あなたは何かができますか?」	あーすぶらざ	小澤 竹俊

平成29年度 修学奨励金の給付

小学校	192人	30,000
中学校	86人	40,000
高等学校	10人	60,000
特別支援学校	24人	40,000
計	312人	10,760,000円

平成29年度 賠償事故状況概要 (12月末日現在)

総数	校内	校外	対人	対物			
				自動車	ガラス	メガネ	その他
74	7	67	17	33	7	5	12
ガラス破損の内訳				自動車破損の原因			
校内 0件		校外 7件		自転車	ポール	石	その他
小学校	中学校	小学校	中学校	20件	2件	3件	8件
0件	0件	7件	0件				

※高等学校及び特別支援学校はなし

自転車事故の内訳		
対車	対人	その他
20件	7件	0件

安全教育団体に対する助成

各団体における活動の一コマ

横浜市PTA連絡協議会

第34回山下公園ファミリー写生大会

実施日▶平成29年4月23日(日)
展覧会▶平成29年6月2日(金)～6月5日(月)
表彰式▶平成29年6月3日(土)
場所▶山下公園(写生大会) 横浜市民ギャラリー(展覧会)
 横浜市健康福祉総合センターホール(表彰式)
参加者▶18,000名

今年は、昨年のように悩まされることなく天候に恵まれ、多くの参加者が朝早くから山下公園にいらっしやいました。思い思いの場所で楽しく笑顔で作品を描かれ素敵な一日を過ごされたことと思います。長きに渡り山下公園で開催してまいりましたが、山下公園埠頭工事の為、この場所での開催が今回で終了となります。多くの皆様が楽しみにしてくださっている事業を今後も継続していけるよう、来年以降の開催場所を検討しております。この事業が途切れることなく開催できるよう取り組んで参ります。



区・部講演会・研修会助成(区研修会事例)

市立高等学校PTA連絡協議会

事業▶秋季研修会 講演会「人生に無駄な経験など何ひとつない」
講師▶落語家 立川志の春氏
実施日▶平成29年10月31日(火)
会場▶横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校ホール

米国イェール大学卒業。三井物産勤務を経て偶然通りかかって初めて観た落語に衝撃を受け、落語家に転身した立川志の春さん。

人生の岐路で何を考え、何を選択してきたかを語っていただきました。師匠である立川志の輔氏の「決して褒めない」教えに悪戦苦闘した見習い時代について、笑いを交えながらお話しいただき、「教える・教わる」とは何かを改めて考えさせられました。古典落語の披露もあり、最初から最後まで涙を流すほど笑ったひとときでした。



単P事業助成

横浜市立斎藤分小学校

事業名▶「昔遊びで楽しもう！」
実施日▶平成29年7月22日(土)

毎年恒例の夏のイベント。今年の企画は昔遊び体験でした。

割り箸鉄砲を作ったの射的、ゴム跳び、メンコ勝負、おはじき、けん玉、ろくむしと、初めて体験する遊びに熱中する子ども達、また子ども達に遊びを教えながらも自分達が夢になってしまふ保護者ボランティア、先生方と笑顔が溢れる時間を送りました。



単P事業助成

横浜市立永田台小学校

事業名▶『学校に泊まろう～ダンボールで寝る体験～』
実施日▶平成29年9月2日(土)～3日(日)
内容▶体育館でダンボールを敷いて寝るという防災体験をメインに、防災に関するワークショップ(チラシで作る紙皿、災害時に身を守るロープワーク)、非常食試食、夜の学校探検、牛乳パックホットドック作り等

今年度新に発足した学校応援隊の3つのチーム(防災チーム/おやじ・イクメン部/フェスティバル部)が合同で開催しました。発災時には学校が防災拠点として地域の避難場所となることから、避

難所生活の体験を通して、必要な知識と技術を学び、日頃から防災意識を高めるきっかけになれば良いとの思いから企画しました。

非常食を試食し、災害時に役に立つロープワークを学び、体育館にダンボールを敷いて寝る、1泊の非日常体験でしたが、親子での参加により、とても充実した学びの多い内容となりました。学校の多大なるご理解とご協力もいただき開催することができました。ありがとうございました。来年度も是非継続して開催したいと思えます。



第22回 野島クリスマスキャンプ2017

場所▶横浜市野島青少年研修センター
日時▶ふれあいの会 平成29年11月26日(日)
 キャンプ当日 平成29年12月9日(土)～10日(日)

キャンプ当日の夜は、#0(シャープゼロ)のコンサート。歌あり、踊りあり、DVDあり…一緒に踊ったり、歌ったりして笑顔がいっぱいでした。また、保護者交流会は、多くの情報交換ができる貴重な時間となりました。翌日は、魚釣り・ボウリング・アクセサリー作り等のレクコーナーを回り参加賞をゲット。その後は、お父さんお母さん手作りのケーキを食

べて大満足の二日間が終了。支えてくださった皆様、ありがとうございました。

